

- 海軍の歴史では「悲劇のロンドン会議」
 - ▽補助艦(巡洋艦 駆逐艦 潜水艦)の建造を 制限しよう
 - 昭和5年1月21日 ロンドンで開かれた国際会議
 - ▽日本は「対米7割」を要求
 - 結果は6割9分7厘5毛 たった0.25%不足
 - ▽「相手のある外交交渉としては成功だった」
 - ところが 海軍軍令部は
 - 「これでは国防に責任が持てぬ」と 強硬に反対
 - ▽条約調印をめぐり 統制のとれていた海軍が
 - 初めて 賛成派 反対派(艦隊派)に 分裂した
 - ▽海軍は 艦隊派が主流となり
 - 国際認識豊かな条約派軍人が 追われていった

- 「統帥権」という巨大な軍事権力が、政治、外交を押し退けて出てくるようになり、軍部独裁への道を開く
 - ▽「統帥権」は 軍隊の最高指揮命令権
 - 政府や議会から独立した 天皇の大権とされた

明治憲法

- 第11条 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス(統帥大権)
- 第12条 天皇ハ陸海軍ノ編成及常備兵額ヲ定ム(編成大権)

- ▽「統帥権」は それまで 政治に公然と 介入してくることは なかったが…
- 満州事変 支那事変と 勝手に火を点けて 軍部は「統帥権」を盾に 拡大していった

- ロンドン会議の時は、民政党的浜口雄幸内閣
 - ▽浜口首相は「日本の財政、国際協調のためにも、会議を決裂させてはいけない」
 - 軍令部の反対を押し切り 政府の責任で調印
 - ▽これに対し「統帥権干犯」の声が 沸き起こった
 - ▽干犯とは 干渉して 権利を侵害すること
 - 国家社会主義者・北一輝(註・ゆき)が
 - 法華経を唱えていて 靈感として浮かんだ言葉
 - ▽「天皇から海軍の統帥権を預かっているのは軍令部だ。政府が軍令部の意向を無視して、軍艦の保有量を決めたのは憲法違反、統帥権干犯だ」

統帥権について司馬遼太郎さん

戦前の日本は、統帥権という政治が口を出ることが出来ない、いわば「魔法の森」に閉じ込められていたようなものだった。明治憲法は三権分立、立法、司法、行政が明快に分かれている憲法だったのに、昭和に入ると次第に統帥権が大きな顔をするようになり、ついには三権の上に立って、憲法を超えた万能性まで帯びてきた。…憲法上、天皇に統帥や国政の執行権はない。となれば、統帥権の番人である参謀本部の権能は無限に近くなり、どういふことでもやれるようになる。…明治の日本が苦勞して作った近代国家は、参謀本部を中心とした統帥機関によって殺されたと云っていい。

浜口 雄幸(はぐち・おさち)

明治3(1870)～昭和6(1931)高知県生まれ。明治28年大蔵省に入り、専売局長官を経て大正1年逓信次官。4年衆院議員に当選し憲政会に所属。蔵相、内相を歴任し、昭和2年民政党結成と共に初代総裁。4年7月首相に就任し、5年1月金解禁を断行したが昭和大恐慌を招く。4月ロンドン海軍軍縮条約に調印、「統帥権干犯」の攻撃を受ける。11月に佐郷屋留雄に狙撃されて重傷を負い、翌年総辞職

北 一輝(きた・かずき)

明治16(1883)～昭和12(1937)新潟県佐渡生まれ。本名輝次郎。国家社会主義者で、中国革命同盟会に参加、大正8年「日本改造法案大綱」を執筆。陸軍青年将校に大きな影響を与え、二・二六事件の指導者と見做され、軍法会議で刑死した

▽条約反対の海軍軍人 右翼だけでなく

野党政友会までが 浜口内閣倒閣のため
「統帥権干犯」を振りかざし 政府を攻撃した

●条約批准に漕ぎ着けたところで、銃弾が浜口を襲う

▽昭和5年11月14日朝 東京駅ホームで

佐郷屋留雄に狙撃され 重傷を負った

駆け付けた医師に「男子の本懐です」

斬奸状には「統帥権干犯の元凶浜口」

取り調べて統帥権のことを聞かれても、全くわかっておらず、若者たちを踊らせる「魔の言葉」だった。軍縮の時代に肩身の狭い思いをしてきた軍人が、統帥権を「錦のみ旗」にして、政治に強い発言をするようになった。

…… 浜口が命を賭けたロンドン会議とは……

大正11年のワシントン会議で、日本は主力艦(戦艦、巡洋戦艦)の「対米7割」を主張したが、「五・五・三」と米英の6割で決着(2月6日調)。補助艦は、日本より低い3割5分に抑えられたフランスの反対で決まらなかった。巡洋艦は野放し状態で、昭和2年6月ジュネーブ会議を開いたが、「米英対等」を主張する米国に対し英国は「イギリス優位」を譲らず、決裂した。

昭和4年秋、英に労働党のマクドナルド内閣、米に共和党フーバー大統領と「軍縮」を公約に掲げた政権が誕生すると一気に補助艦協定の気運が高まり、英は「米英対等」を提案、米の同意を取り付け、日本にも会議参加を要請した。

●浜口内閣(昭和4年7月2日成立)は「外に協調、内に軍縮」

▽強硬外交の 政友会・田中義一内閣が

張作霖爆殺事件で 総辞職

外相には 国際協調主義の幣原喜重郎を起用

▽軍事費は 国家予算の40%を上回っていた

▽首席全権に 若槻礼次郎前首相

全権には 財部彪海相

松平恒雄駐英大使 永井松三ベルギー大使

英はマクドナルド 米はスティムソン(國務卿)

佐郷屋 留雄(さごうや・とめお)

明治41(1908)～昭和47(1972) 満州生まれ。右翼の運動家。船員ののち満州で愛国社に入り浜口首相を狙撃。昭和8年死刑判決を受けるが、15年恩赦で出獄。戦後は井上日召らと護国団を結成し団長

マクドナルド (James Ramsay MacDonald)

1866～1937 英国の政治家。1924年初の労働党内閣を組織、31年労働党を離れ、保守党・自由党と結び挙国内閣を組織

フーバー (Herbert Clark Hoover)

1874～1964 米国の政治家。商務長官として好況に貢献し1929年第31代大統領に就任したが、大恐慌対策に失敗

田中 義一(たなか・ぎいち)

元治1(1864)～昭和4(1929) 長州藩出身。陸軍大将。陸軍軍務局長、参謀次長、陸相を歴任。大正14年政友会総裁。昭和2年4月首相に就任し外相兼務。3次にわたる山東半島出兵を強行し張作霖爆殺事件で天皇から叱責され、総辞職

幣原 喜重郎(しではら・きじゅうろう)

明治5(1872)～昭和26(1951) 大阪生まれ。駐英・駐米大使を経てワシントン会議全権。大正13年以來第1次・2次加藤高明、第1次・2次若槻、浜口内閣外相。親英米路線・平和外交を展開、ロンドン軍縮条約を成立させた。戦後、昭和20年10月首相。進歩党総裁となり22年衆院議員。24年衆院議長。著に「外交五十年」

若槻 礼次郎(わかき・れいじろう)

慶応2(1866)～昭和24(1949) 島根県生まれ。蔵相、内相を歴任し大正15年首相に就任したが、昭和2年の金融恐慌で総辞職。ロンドン会議首席全権。6年4月浜口の病状悪化で再び首相、民政党総裁。

- 全権団に対する政府訓令は「無脅威・不侵略の軍備」
- ▽国際平和と 国民負担軽減のため
- 「進んで軍備縮小」が 大方針とされた

海軍の三大原則

- ①補助艦の総括保有量は対米7割の維持
- ②大型巡洋艦(1万8千噸艦)は対米7割の確保
- ③潜水艦の現有勢力7万8,500トンの維持

海軍が対米7割にこだわるのは

万一日本米の艦隊決戦になった場合、迎え撃つ日本艦隊としては途中での戦力消耗を計算すれば、最初の10対7が1対1になる。それが10対6では1対1にならず米国艦隊が優勢を保持するという戦略論から。特に迎撃作戦上、大型巡洋艦と潜水艦を重視した。

▽軍令部は「絶対に譲れない三大原則だ」と発表

軍令部長は加藤寛治大将

ワシントン会議に海軍随員として出席、強硬に対米7割を主張、「会議脱退発言」して首席全権加藤友三郎大将から叱責された。寛治には、国民に7割の必要性がよく理解されておらず、6割で涙を呑んだ — この思いが強く残った。そこで「補助艦は何が何でも7割は取る」と、いち早く7割を打ち出し、国民に国防上最低限の兵力と周知徹底させようと、いわば「背水の陣」として三大原則を声高に唱えた。

▽結果的には「7割」という数字が
たった 0.25%足りなかつただけなのに
青年将校や右翼に
国防危機感を煽らせる材料を 与えることに

- 加藤は、政府訓令を閣議決定でなく御前会議で決めるよう要求したが、西園寺公望は許さなかつた
- ▽外交交渉で 予め 譲れない一線を

決めておくのは よくない
御前会議で決めれば 天皇の「絶対命令」に

…… 西園寺の言葉 ……
一国の軍備というものは、その国の財政の許

満州事変勃発で8か月で辞職。重臣として和平に尽力。著に「古風庵回顧録」

財部 彪(たからべ・たけし)

慶応3(1867)～昭和24(1949) 宮崎県生まれ。海軍大将。妻は山本権兵衛の長女いね子。海軍次官、舞鶴・佐世保・横須賀鎮守府長官を歴任、大正12年～昭和5年6代の内閣で海相。ロンドン会議全権

松平 恒雄(まつだいら・つねお)

明治10(1877)～昭和24(1949) 旧会津藩主松平容保の4男。外務次官、駐米・駐英大使を歴任、ロンドン会議全権。昭和11年宮内大臣。22年参院議員、初代議長

永井 松三(ながい・まつぞう)

明治10(1877)～昭和32(1957) 愛知県生まれ。スウェーデン・ベルギー大使を歴任、ロンドン会議全権。昭和12年東京五輪組織委事務総長に就任。大会は支那事変激化で中止となったがIOCは翌年、労に報いIOC委員に選任。日本が27年のヘルシンキ五輪に早期復帰できたのも、24年のIOC総会に病を押して出席した永井の功績が大きかった

スティムソン(Henry Lewis Stimson)

1857～1950 米国の政治家。フーバー政権で国務長官。満州事変に昭和7年1月、「日本の不戦条約、九カ国条約違反による満州侵略は認められない」と日本、中国に通告。日米開戦時の陸軍長官

加藤 寛治(かとう・ひろはる)

明治3(1870)～昭和14(1939) 福井県生まれ。海軍大将。海大校長を経てワシントン会議海軍首席随員。軍令部次長、連合艦隊長官を歴任、昭和4年軍令部長となり、ロンドン軍縮条約に強硬に反対。5年6月軍事参議官。「艦隊派」の中心に

す範囲でやって、初めて耐久力のある威力を保てる。日本がリードして、六割でもいいからこの会議を成功に導くようにする。国際平和の促進に誠意をもって努力する。このことを各国に認めさせることが、将来の日本の国際的地位をますます高める所以だ。

英米と共に、采配の柄を握るようになった日本が、七割を強調する余り、それを捨ててしまっ
て、フランス、イタリアのように采配の先にぶら下がる国になってはいけない。

▽ロンドン会議には 仏伊も参加したが
実質的には 日米英の三カ国会議だった

●海軍省、軍令部で、立場が分かれた

▽海軍省＝**山梨勝之進**(中将) **堀悌吉**(少将)
「出来るだけ海軍の主張はするが
会議は何としても纏めたい」

▽軍令部＝**加藤部長 末次信正**(少将)
「7割死守 会議決裂も辞さず」

▽ワシントン会議では 部内に 異論があっても
加藤友三郎が 見事な統制力で 纏めていた
山梨は「裁断する勇氣と胆力。

村正の名刀のような人でした」

▽ロンドン会議全権・財部海相は 器が違い過ぎた

「財部親王」

財部は「海軍育ての親」山本権兵衛の娘婿。山本は日露開戦前に東郷平八郎を連合艦隊長官に抜擢したように、人を見る目の確かさ、公正な人事で「薩摩の海軍」を「日本の海軍」にしたと言われたが、唯一の例外が財部の人事。同期生どころか、2、3年先輩を追い越して宮様並みのスピード昇進。海兵2期先輩の鈴木貫太郎が大將になったのは大正12年8月、財部は3年9か月も早く8年11月になっている。

▽ロンドンでは 難局にぶつかるたびに 動揺し
ぐらついた 一番肝心な 信念がなかった

▽加藤(友)は 加藤(寛)に「勝手な行動をすれば、
君だけ帰国を命じ、断固たる措置をとる」

加藤 友三郎(かとう・ともさぶろう)

文久1(1861)～大正12(1923) 広島県生まれ。海軍大将。日本海海戦の連合艦隊参謀長。大正4年海相となりワシントン会議首席全権として海軍軍縮条約に調印。11年6月海相兼務のまま首相に就任し、シベリア撤兵、陸軍軍縮を行なう

西園寺 公望(さいおんじ・きんもち)

嘉永2(1849)～昭和15(1940) 京都生まれ。九清華家の出。フランスに10年間留学、文相、枢密院議長を歴任し明治36年政友会総裁。39年首相。44再度首相となり、陸軍の2個師団増設要求を拒否し陸相辞職で総辞職。パリ講和会議全権。晩年は最後の元老として国際協調に努め後継首相の奏請に当たる

山梨 勝之進(やまなし・かつのしん)

明治10(1877)～昭和42(1967) 仙台市生まれ。海軍大将。ワシントン会議に随員として参加。人事局長を経て昭和3年次官。佐世保・呉鎮守府長官。8年予備役編入。14年学習院長となり、21年まで皇太子(馱皇)の教育に当たる

堀 悌吉(ほり・ていきち)

明治16(1883)～昭和34(1959) 大分県生まれ。海軍中将。ワシントン会議随員、国際連盟海軍代表を歴任。昭和4年軍務局長。9年12月第1戦隊司令官の時、予備役となり日本飛行機、浦賀船渠社長。山本五十六とは海兵同期の親友

末次 信正(すえつぐ・のぶまさ)

明治13(1880)～昭和19(1944) 山口県生まれ。海軍大将。ワシントン会議に随員として参加。教育局長を経て昭和3年軍令部次長。連合艦隊長官、横須賀鎮守府長官を歴任。12年予備役。近衛内閣内相

▽財部が毅然とした態度をとっていたら
あれほど紛糾することはなかったろう

●財部が不在中、浜口首相が海相事務管理に

▽浜口は 山梨次官に

「自分は一国の総理として、陛下に対して、国民
に対して、全責任をもって信念に殉ずる覚悟
であるから、次官ひとつ助けてくれ」

▽山梨は「ライオン宰相」の決意を感じ取り

前海相岡田啓介大将を 後見人にするよう勧めた

— 軍人の世界は階級と先輩後輩 —

山梨は中將、加藤は大将で海兵でも7期先輩。
そこで加藤の3期先輩、同じ福井県出身の岡田
を調整役に据えることで、加藤を抑え、海軍の
意思統一を図ろうとした。岡田の人事には、宮
中、西園寺の期待もあったようで、岡田は内大
臣牧野伸顕から「日本のために会議が決裂し
ては困る」と言われ、回顧録に「これは、賢きあ
たり(暲天皇)のご意向であると思った」

..... 国を思う大狸

「狸も狸、大狸だが、自分ら以上に国を思う大
狸だ」岡田と共に終戦工作に奔走した吉田茂
の言葉。その岡田が考えたのは、出来るだけ激
しい衝突を避けながら、ふんわり纏めること。
岡田は言っている。「要するにみんな常識人な
んだから、その常識が私の足がかりなんだ。い
くら激している人間にも常識的な一面はある
のだから、そこを相手にする。狂人だったら別
だ。ただ逃げる。これが私の兵法だ」

岡田は病気で海相を辞任したばかり、医者か
ら酒を禁じられていた。訪ねた政治部記者に
お嬢さんがお茶を出す。すかさず「葡萄酒を持
って来い」記者が「私は酒を飲みませんから」

お嬢さんがドアの外へ消えるなり睨み付け、
「この部屋にいるのは、お前だけじゃないぞ」

横須賀の料理屋「小松」で、青年士官が岡田揮
毫の額を「何だ、こんなもの」と、引きずり下ろ
して池に放り込み快哉を叫んだという。

山本 権兵衛(やまもと・ごんべい)

嘉永5(1852)～昭和8(1933) 薩摩藩出
身。海軍大将。明治28年軍務局長となり
対露戦に「六六艦隊」を整備。31年海相、
在任7年。大正2年首相に就任、軍部大臣
現役武官制を撤廃したがシーメンス事
件(軍艦建造をめぐる汚職)で辞職。12年、再び首相
となるも虎ノ門事件(皇太子襲撃)で辞職

東郷 平八郎(とうごう・へいはちろう)

弘化4(1847)～昭和9(1934) 薩摩藩出
身。海軍大将・元帥。明治3年から8年間、
英国留学。36年連合艦隊長官。日本海海
戦でバルチック艦隊を破り国民的英雄
に。戦後軍令部長。海軍最長老として大
きな発言権を持つ。国葬

鈴木 貫太郎(すずき・かんたろう)

慶応3(1867)～昭和23(1948) 関宿藩代
官の子として大阪生まれ。海軍大将。大
正13年連合艦隊長官、14年軍令部長。昭
和4年予備役となり、侍従長。二・二六事
件で襲撃され、瀕死の重傷を負う。枢密
院副議長を経て19年議長。20年4月首相
に就任、聖断で戦争を終結させる

岡田 啓介(おかだ・けいすけ)

慶応4(1868)～昭和27(1952) 福井県生
まれ。海軍大将。連合艦隊長官を経て昭
和2年海相。7年再び海相。9年7月首相と
なり、二・二六事件で襲撃され危うく難
を逃れる。重臣として終戦に尽力した

牧野 伸顕(まきの・のぶあき)

文久1(1861)～昭和24(1949) 薩摩藩の
大久保利通の次男。駐伊・駐奥公使を経
て文相、外相などを歴任。大正10年宮内
相。14年内大臣となり、政党・官僚・軍部
の対立を調整した。二・二六事件で襲撃
されたが難を逃れる。著に「回顧録」

●ロンドン会議は昭和5年1月21日から始まったが、日米の主張が対立し、難航した

▽米英間には「日本を6割に抑える」の了解
何度も 決裂寸前にまでいった

▽マクドナルドは 松平全権と
米全権リード(上院幹事長)が 親しい仲なので
二人による フリー・トーキングを提案

▽3月13日 日米妥協案が纏った
条約期間は5年 昭和10年の年末まで

日米妥協案(数字は数)

	大巡	軽巡	駆逐艦	潜水艦	総計
米	180,000	143,500	150,000	52,700	526,200
日	108,400	100,450	105,500	52,700	367,050
比率	60.2%	70.0%	70.3%	100%	69.75%

▽潜水艦は 米が「危険兵器」と 全廃論を出したが
日米同数 5万2,700トンを 決着した

▽最後まで 一番もめた 大型巡洋艦は
米18万トに対し 日本10万8,400ト 60.2%

妥協案のミソは

米が大型巡洋艦18隻のうち3隻の着工を昭和8年からとしたこと。完成には時間がかかるから、条約期限の昭和10年までは、一応日本の要求した7割の線は守られることになる。米の譲歩であり、まさに苦心の産物だった。

●若槻は3月14日、「日米妥協案で協定するよう」請訓

▽若槻とすれば「海軍の主張を容れ、
押すべき所は押した。それなりの成果はあった」

▽海軍側随員は 不満だった
大型巡洋艦は 当面7割としても
昭和10年を過ぎれば 6割になってしまう

潜水艦も 7万8,500トなければ
米艦隊の漸減作戦が 出来なくなる

山本五十六少将(熾勲)も 強硬な反対派だった

▽財部は 若槻に「海軍としては、
反対意見上申の電報を打ちたい」
後で非難された時「最後まで反対したんだ」と
釈明の余地 逃げ道を作っておきたかった

吉田 茂(よしだ・しげる)

明治11(1878)～昭和42(1967)東京生まれ。牧野伸顕の女婿。駐伊・駐英大使。戦争中、和平工作を行い憲兵隊に逮捕。昭和21年首相。5次の内閣を組織し講和条約を締結。38年引退したが、保守本流の元老として大きな影響力を持つ。国葬

軍神広瀬武夫と財部

広瀬、財部、岡田は海兵同期生だが「岡田啓介回顧録」には、<広瀬が山本から「俺の娘をやろう」といわれて、「私は親の威光で出世したくありません」と断った有名な話がある。そのお嬢さんが財部の嫁さんになった>

財部は薩摩の支藩都城出身。海兵をトップで卒業し、当時(船30年)は常備艦隊参謀、早くから将来を嘱望されていた。広瀬は86人中64番。藩閥意識の強かった時代、山本が娘婿に目をつけたのは秀才の財部だったろう。ところが「親の七光」を気にして悩む財部を見兼ね、男気を出した広瀬が山本の所へ、「財部は放っておいても偉くなる男だ。この縁談はなかったことにしてくれ」と断りに行った。山本が「そんな依怙贖戻はしない」と約束したので、財部が山本の娘婿になった、が本当の話では…。

同期生の岡田までそう思い込むほど、財部が普段からそんな弁解をしていたところに「周りの目を気にする」財部の性格がよく出ている。

広瀬 武夫(ひろせ・たけお)

慶応4(1868)～明治37(1904)大分県生まれ。海軍少佐。明治30年からロシアに留学。日露戦争で第2回旅順口閉塞作戦で福井丸を指揮。行方不明の部下・杉野孫七上等兵曹を沈没間際まで探し続けたが、ボート移乗後敵弾に当たり戦死。中佐に進級し、「軍神」と称揚される

▽若槻は16日 幣原外相に 極秘電報

「全権辞職」の覚悟で 政府の決断を迫った

— 若槻全権の幣原外相宛て電報 —

最早今日となりては、最後の決心を為さざるべからず。日米交渉(蹊蹙)の通りにて会議をまとむるの外なく…この際躊躇し居るときは、またまた英米の内部事情により、何らか逆戻りをなすことなしとも計り難く、すこぶる痛心に堪えず。右電報を以て、政府に対する最後の請訓とし居る次第。

●軍令部は、加藤部長を筆頭に大反対

▽末次次長は17日 夕刊に「海軍当局の声明」を發表

……「海軍当局の声明」……………
「日米妥協案は、国防を破壊するものだ。絶対反対である。海軍としては、ほかに確固たる安全保障条約でもないかぎり、当初の三大原則を譲ることはできない」

▽海軍には「政治に拘るのは大臣一人」の伝統
大臣以外の者が 海軍を代表して
声明を出したりすることは これまでなかった

●財部全権の二枚舌が、事態を紛糾させた

▽軍令部には「会議決裂も辞さず」と 強気の電報
若槻の「妥結請訓」の電報には 全権として署名
▽幣原外相は 軍令部に

「全権一致の意見だから妥協案で妥結させたい」

▽海軍省からの問い合わせに

「米案にては不満足なり。されども全権としては署名せり。新事態の起こるを望む。目下苦慮中」

●政府回訓は遅れたが、浜口首相の腹は決まっていた

▽3月25日 山梨次官を呼び 妥結の方針を告げた

— 浜口の悲壮な決意 —

「これは、自分が政権を失うとも、民政党を失うとも、また自分の身命を失うとも、奪うべからざるべき決意なり」

山本 五十六(やまもと・いそく)

明治17(1884)～昭和18(1943)新潟県生まれ。海軍大将。2度の米国駐在、赤城艦長、ロンドン会議次席随員。航空本部長を経て昭和11年海軍次官となり日独伊三国同盟に反対。14年連合艦隊長官。開戦劈頭の真珠湾攻撃を立案、実行した。前線視察中にソロモン諸島上空で米機に撃墜され、戦死。死後元帥。国葬

— 末次について —

[岡田回顧録]加藤は激情型だが、正直一途で単純だし、やりやすかった。ところがその下で画策している末次はずるいんだから、こちらもその積もりで相手した。

[原田熊雄日記]加藤寛治も、末次が休んでいる間は大変おとなしいが、末次が出て来るとまたやかましくなってくる。結局末次が加藤をあやつっているの、末次を操る者はやはり枢密院の平沼あたりのようだ。

後の首相平沼騏一郎のことで、末次は政友会幹事長の森恪とも親交があり、末次自身、近衛内閣内相になったように、政治好きの海軍軍人だった。

原田 熊雄(はらだ・くまお)

明治21(1888)～昭和21(1946)東京生まれ。日銀勤務、加藤高明首相秘書官を経て、大正15年元老西園寺の秘書となり、重臣・高官との連絡、政界情報の収集に当たった。著に「西園寺公と政局」

平沼 騏一郎(ひらぬま・きいちろう)

慶応3(1867)～昭和27(1952)岡山県生まれ。検事総長、大審院長、法相を歴任。右翼結社「国本社」を主宰し枢密院副議長時代、ロンドン軍縮条約に反対。昭和11年枢密院議長となり、14年首相。A級戦犯で終身禁固刑。仮出所中に病没

▽7割にこだわれば 政府と海軍の正面衝突に
岡田も山梨も「それだけは避けなければ…」
▽岡田は 加藤を説得 「足りない分は飛行機増強な
どで補い、政府に予算面の配慮をして貰っては」

●浜口は27日、岡田、加藤に「4月1日に閣議決定する」

▽「海軍の事情については十分詳細を聞いた。

この上は自分の責任で決定する」

▽参内して 天皇に これまでの経過を説明

日記に「優渥なる御詞を拝し、侍従長より更に
聖旨の程を拝承して退出。此時より、回訓案
に対する自分の信念愈固し」

▽加藤も 岡田に「私の腹も決まりました。

飛行機に重点を置けば国防は保てる」

一度は 妥協案に 同意していたが

軍令部に戻ると 末次に突き上げられ

3月31日「陛下に上奏したい」と 言い出した

▽天皇の所で 回訓案を 阻止しようとしたのだが

牧野内大臣が 鈴木侍従長と相談

鈴木は 加藤に「政府はまだ閣議決定して
いない。首相の上奏前に軍令部長が同じ案
件で先に上奏するのは不適當だ」

▽海軍の先輩に たしなめられ

加藤も「政府上奏前は差し控えよう」

▽回訓案は 4月1日 閣議決定され

浜口首相は 直ちに上奏して 裁可を得た

▽加藤が この後 帷幄上奏を申し入れると

鈴木は「日程が詰まっている」と 断った

これが 二・二六事件で 陸軍青年将校から

「上奏阻止だ」と 鈴木が 襲撃される原因に

●ロンドン条約は4月22日調印された

▽若槻は 全権団(70人)を

宿舎グロブナー・ハウスに招待し 慰労晩餐会

▽海軍随員が 不満を訴え 口論から殴り合いも

賀屋興宣(大蔵顧問)は「殴られて

鼻血を出し、ワイシャツが真っ赤になった」

若槻、浜口には「弾丸を撃たない戦争」

若槻は、部屋に戻るように勧められてもきか
なかった。「ここで引っ込んだら、軍人に負け

森 恪(もり・つとむ=遜もり・かく)

明治15(1882)～昭和7(1932) 大阪生まれ。三井物産に入り、天津支店長など20
年近い中国勤務で多くの合弁事業を手
がけた後、大正9年衆院議員(当選5回)。
昭和2年田中内閣外務政務次官となり、
山東出兵など対中国強硬外交を推進し
た。4年政友会幹事長、6年内閣書記官長

まだ「大艦巨砲時代」だった

太平洋戦争の時は飛行機が主役。10
年も経つかどうかで「飛行機の時代」
になるが、この頃はまだ、ほとんどの
海軍軍人が「大きな軍艦、大きな大砲
が海を制する」で凝り固まっていた。

帷幄上奏権(いあくじょうそうけん)

帷幄とは、陣営に幕を張り巡らした
総大将(天皇)のいる所。参謀総長、軍令
部長は軍機・軍令事項について、直接
天皇に上奏することが出来た。

「統帥権干犯」の火種

4月1日、浜口首相が閣議決定に先立
って回訓案の内容を説明するという
ので、岡田は加藤に「総理に予算の善
処を要望したらどうか」 加藤が「そ
れでは米国案を認めたことになる」
そこで岡田が加藤に代わり、「専門的
見地からは不賛成だが、政府が方針
を決定した以上は、海軍はそれに沿
って最善を尽くすようにしたい」

脇で聞いていた加藤は「用兵作戦上
からは、米国案では困ります。用兵作
戦の上からも…」と呟きながらも、回
訓案そのものには反対しなかった。
しかし、やがて加藤のこの言葉が「軍
令部長は反対したのだ」と「統帥権干
犯」騒動に利用されることになる。

て全権が逃げたことになる。それはいかん、私は退かん」海軍随員が全員引き揚げるまで頑張り通したという。若槻は言っている。「外へ向かって戦うことは、同時に内に向かって戦うことであり、それでなければ事は纏らない」

▽新聞論調も 好意的だった。

●ところが帝国議会(4月21日開)で、突然降って沸いたように「統帥権干犯問題」

▽調印されたロンドン条約が

天皇の批准を得て 効力を発するには

①議会の承認 ②海軍軍事参議官会議で、兵力量が適当かどうかの答申 ③枢密院の条約審査

「浜口内閣倒閣」の共同謀議

3月末、柳橋の料亭で、政友会幹事長森恪と加藤、末次の三者会談が行なわれた。軍令部はロンドン条約を潰すため、政友会は倒閣のため、批准まであらゆる手段を使ってやろうとなった。武器は「統帥権干犯」。

森は出入りの右翼から北一輝の話を聞いて、「使える理論だ」— 憲法第12条の常備兵額とは平時の兵力量、兵隊や軍艦の数のことで、この「編成大権」は「統帥大権」に含まれるから、統帥事項で天皇を補佐する軍令部長の意向を無視した政府決定は、「統帥権干犯」の論理。

▽日本海軍は 建軍以来 英国海軍の指導を受けた英国にならい 兵力量の決定権も

軍令部の人事権も 海軍大臣が握っていた

●政友会総裁犬養毅が、まず追及の火の手を挙げた

▽「用兵の責任者である軍令部長は、この兵力量では国防出来ない」と断言している。これは政府の専断行為だ」大幹部鳩山一郎も「国防計画は軍令部の責任であり、政府が変更するのは統帥権干犯だ」

▽浜口首相は「兵力量の決定は内閣の輔弼事項」

条約決定権は政府にあり 兵力量も議会で審議される予算と結びついている 従って国務大臣の輔弼(ほひ=天皇の統治を輔けること)に属する

賀屋 興宣(かや・きよのり)

明治22(1889)～昭和52(1977)広島県生まれ。主計局長、大蔵次官を経て昭和12年第1次近衛内閣蔵相。16年東条内閣蔵相。A級戦犯で終身禁固刑を受け、30年出所。政界に復帰し33年衆院議員(当選5回)。第2次・3次池田内閣法相

大阪朝日新聞社説

日本が妥協案を受諾せるは、決して卑屈の譲歩にあらず。しかも、英米両国民に与えた好印象は、この譲歩を償いて余りあり。いわんや、国民負担軽減の功大なるを思わば、わが方今回の措置はすこぶる賢明なり。

(4月1日 政府が全権に回訓した直後)

犬養 毅(いぬかい・つよし)

安政2(1855)～昭和7(1932)岡山県生まれ。明治23年第1回総選挙以来連続当選18回。31年大隈内閣文相。国民党総理として護憲・普選運動を推進し「憲政の神様」と称された。大正14年政友会と革新倶楽部合同後、政界引退を表明したが、昭和4年政友会総裁。6年首相に就任し、五・一五事件で海軍将校に射殺される

鳩山 一郎(はとやま・いちろう)

明治16(1883)～昭和34(1959)東京生まれ。大正4年政友会衆院議員(当選15回)となり昭和2年内閣書記官長。文相を歴任し戦時中は軍部支配に抵抗。戦後、自由党結成、21年組閣直前に公職追放。29年日本民主党を結成し、首相。31年自由党総裁となり日ソ国交回復を実現した

…… 憲法学者美濃部達吉も政府支持 ……

兵力量の決定は、純然たる国務上のことで、専ら内閣だけが輔弼の責任に当たる。統帥大権は編成大権に及ばない。

▽浜口内閣は「海軍の意見は最も尊重し斟酌した。
憲法上の論議には答える必要がない」
▽議会も 与党民政党が 絶対多数
ロンドン条約は まず衆議院で 承認された

- 政友会が「統帥権干犯」を政争の具にしたことは、政党自ら立憲政治を否定する自殺行為だった
▽軍備の問題を 國務大臣の輔弼事項から 締め出す
国家の財政には 関係なく
「統帥権」を盾に 軍部の一存で出来ることに
▽政党が 軍部と結託し 軍部の政治介入を許した
「統帥権」が 市民権を得て
右翼や 青年将校を 活気づかせることに

- 海軍には「二人の大御所」
▽東郷平八郎元帥 伏見宮博恭王 共に 7 割論者
▽山梨次官は ロンドン会議に先立ち
浜口首相に 二人に会うよう勧めたが…

…… 浜口は断った ……………
「私は元帥を尊敬していることは人後に落ちない。元帥の方から自分の考えを尋ねられれば喜んで説明するが、私は首相であって、国民と議会に責任を持つ立場にある。私の立場は不動であるから、自分の方から進んで元帥に説明するのは如何かと思う」

▽条約調印までは
伏見宮「回訓が出るまでは強硬に押せ。しかし、すでに決定したら、これに従わなければならない。加藤のように強いばかりでも困る」
東郷元帥「いったん決定された以上は、それやらなければならない」

- 「統帥権干犯問題」が起こると、条約反対に一変
▽そこへ 二人を怒らせた 幣原の議会演説(4月25日)
「七割主張の日本の要求は、一応成功したと考える。海軍本来の要求とは、ほとんど差がない」
しかも「ロンドン条約には、交渉の決裂を賭してでも争わなければならないほどのものはない。海軍もこれで喜んでいる」

美濃部 達吉(みのべ・たつき)
明治6(1873)～昭和23(1948) 兵庫県生まれ。明治35年東大教授となり「天皇機関説」を主張。右翼から攻撃され昭和10年貴族院議員辞職。元都知事亮吉は長男

護憲運動の先頭に立った政友会

陸軍は大正元年2個師団増設を要求し、西園寺内閣に拒否されると、陸相辞職で内閣を倒した。この時「憲政擁護・閥族打破」をスローガンに護憲運動を展開、「大正政変」の幕を開いたのは政友会だった。国民党総理・犬養も尾崎行雄と共にその先頭に立って「憲政の神様」と称揚された。

尾崎 行雄(おさき・ゆきお)

安政5(1858)～昭和29(1954) 神奈川県生まれ。明治23年第1回総選挙以来連続当選25回。文相、東京市長を歴任し大正政変で護憲運動の先頭に立つ。大正3年法相。昭和27年代議士生活63年を記録、国会から名誉議員の称号。没後、憲政の功績を讃え「尾崎記念館」が設立される

伏見宮 博恭(ふしみのみや・ひろやす)

明治8(1875)～昭和21(1946) 海軍大将・元帥。海大校長、第2艦隊長官を経て昭和7年軍令部長。16年まで軍令部総長

加藤と森恪は動いた

加藤軍令部長は東郷邸、伏見宮邸に日参した。そして調印前日、軍令部の判を捺した公式文書で、海軍省に「軍令部はこの条約に同意出来ない」との反対通牒を出した。森の「東郷と宮様を反対に担ぎ出せ」「軍令部は反対意見をはっきりさせておけ」との献策によるものだった。

▽鬱憤のはけ口求めていた 反対派の不満が爆発
加藤軍令部長は 日記に「幣原外相、
外交演説ニ暴言ヲハキ、朝野物議騒然タリ」
▽伏見宮も「言語道断」と 条約破棄を主張

●草刈英治少佐(禰瀨)の自殺も、「条約反対」の火に油

▽右翼や青年将校は「条約に抗議しての憤死だ」
「草刈の死を無駄にするな」

▽財部全権が帰国の時 駅頭は
「売国奴」「国賊」のノボリで 埋まった

▽海軍省には 連日 右翼の抗議団
山梨次官は 高橋雄豹(警衛内務)から
「あの時は危なくて見ておれなかった。
あなたはよく無事でしたね」

▽堀軍務局長と「こうなったら覚悟を決めよう」

●加藤軍令部長は6月10日、「条約反対」の上奏をして天皇に直接辞表を出した

▽天皇が 財部海相を呼ぶと
「辞表は出さなかったことにして頂きたい」

▽加藤を軍事参議官に 後任には 谷口尚真大将
山梨 末次も「喧嘩両成敗」の形で 更迭された

●海軍軍事参議官会議は7月23日開かれた

▽メンバー5人 議長は東郷元帥
条約賛成が 岡田 谷口 反対は 伏見宮 加藤

▽東郷も反対派 天皇に対する奉答文では
「この条約では、兵力に欠陥を生ずる」

▽このままでは 批准が難しくなる

▽岡田が奔走し 政府から
「飛行機など補充対策に努力する」約束
財部が 批准後に 大臣を辞職することで
やっと「国防上ほぼ支障なきを得る」に

●残る最後の関門は枢密院

▽森恪は 議会の追及が 不発に終わると
枢密院で 条約を否決しようと 活発な工作
▽平沼副議長はじめ 幣原外交には 批判的だった
▽8月18日 第1回条約審査会が 開かれたが
審査委員は 反対派顧問官で 固められた

ノイローゼによる自殺

草刈少佐は、軍令部参謀に転勤命令を受け5月20日夜、東海道線寝台車の車中で割腹自殺した。遺書には「神国日本は汝の忠死を絶対に必要とす。昔和氣清麻呂、楠正成ありて、汝草刈英治を第三神とす」とあった。

ロンドンでは、同期生や青年将校から、連日のように「貴様が頑張って日本の主張を通せ」と、半ば脅しにも近い激励の電報、手紙が舞い込み、責任を一人で背負う形で悩んでいた。

谷口 尚真(たぐち・なま)

明治3(1870)～昭和16(1941) 広島県生まれ。海軍大将。第2艦隊長官、呉鎮守府長官を経て昭和3年連合艦隊長官。5年6月軍令部長。7年軍事参議官

「昭和天皇独白録」

財部はこの際、断然軍令部長を更迭してしまえばよかったものを、ぐずぐずしていたから、事が紛糾した。

東郷の財部嫌い

財部は、ロンドン会議にいね子夫人を同伴したが、東郷は「カカアを連れて行って」とカンカン。「加藤が辞めたのだから、財部も辞めさせろ」と、きかなかったという。(財部は5年10月辞職)

枢密院

明治憲法下の天皇の最高諮問機関。明治21年設置され、条約・勅令など重要な国事を審査した。議長、副議長、顧問官、書記官長で組織され、顧問官は国務に熟達した40歳以上の男子から首相が任命。成年以上の親王、国務大臣も参加できた。昭和22年廃止。

▽新聞には「政変説」も出てきたが
浜口首相は 剛直そのものだった
軍事参議官会議の資料提出と
加藤軍令部長の出席要求を
「行政干渉であるから、一切応じられない」
▽新聞も 浜口内閣を支持した

東京日日新聞(9月17日)

国民は断然ロンドン条約を支持している。枢府はあえて国民と世論を敵として非違を貫こうとするのか。政府はあくまで所信に向かつて邁進し最後まで枢府と戦え。

▽顧問官任免権は 首相が握っており
浜口は いざとなれば「反対派更迭」の腹だった
▽顧問官は「現役最後のイス」追われたら
政治への発言力はなくなり「ただの人」に
▽反対派も 腰砕けとなり
ロンドン条約は 10月1日 枢密院本会議で
満場一致で可決され 翌2日 批准となった

●ロンドン会議は、海軍に大きな傷を残した
▽若い士官に 人気のある「艦隊派」が 主流に
▽昭和8年1月 大角岑生が 海相に就任すると
良識派の人材が 次々と 海軍を追われた
山梨大将(8年3月) 谷口大将(8年9月)
左近司政三中将(9年3月) 寺島健中将(9年3月)
▽山本五十六は ロンドン出張中
堀悌吉中将の 予備役編入(9年12月)を聞いて
伊藤正徳(時事新報特派員・戦後共同通信理事長)に
「堀を失ったのと、巡洋艦の割とどっちが大事か。海軍の大バカ人事だ」
▽山本が条約派に変わるのには 堀追放人事から

嶋田繁太郎(日米開戦時の海相)の言葉

嶋田は堀、山本と海兵同期だが、戦後「開戦前に堀が海軍大臣として在任していれば、もっと適切に時局を処理していたのではないか」

●「7割」が、いかに意味のない比率だったか
▽太平洋戦争の経過が はっきり 証明している

大角 岑生(おおすみ・みねお)

明治9(1876)～昭和16(1941) 愛知県生まれ。海軍大将。海軍次官、第2艦隊長官を歴任し昭和6年海相。軍事参議官を経て8年再び海相。条約派追放の大角人事を行なう。11年軍事参議官となり、中国出張中に飛行機事故で殉職

左近司 政三(さくじ・せいぞう)

明治12(1879)～昭和44(1969) 大阪生まれ。海軍中将。軍務局長の時ロンドン会議に派遣され、佐世保鎮守府長官。北樺太石油社長、商工相を歴任。昭和20年鈴木内閣国務相となり、終戦に尽力

寺島 健(てらしま・けん)

明治15(1882)～昭和47(1972) 和歌山県生まれ。海軍中将。駐仏武官、軍務局長。予備役後、浦賀船渠、大日本兵器社長を経て昭和16年東条内閣通信相兼鉄道相

山本の堀宛て手紙

「かくのごとき人事が行なわれる今日の海軍に対し、これが救済のために努力するもとうてい難しと思わる。やはり山梨さんのいわれるごとく、海軍自体の慢心にたおるるの悲境にいったん陥りたる後、立て直すの外なきにあらざるやを思わしむ」

嶋田 繁太郎(しま・しげたろう)

明治16(1883)～昭和51(1976) 東京生まれ。海軍大将。昭和16年東条内閣海相となり、「東条の副官」と評判が悪かった。A級戦犯で終身禁固刑。30年仮釈放

山梨も立派な軍人だった

若槻が「あんたなどは、当たり前に行けば連合艦隊司令長官になるだろうし、海軍大臣にもなるべき人だと思う。それが予備役になって、今日の

▽第一「7割なら戦える」という主張は

対米戦になれば 英国も敵になり 3割5分に

この現実的視点を 無視したものだった

▽だからこそ 国防には 外交が大切なのだが

国防を「海軍」の狭い窓からしか 見なかった

●浜口の、首相としての見事なリーダーシップ

▽ロンドン条約成立は 政党内閣 責任内閣の力を

見せつけたが 浜口が 不動の決心を示したから

— 大蔵省では5年余りも地方回り —

会計課にいた時、大臣秘書官から大臣官舎の修繕を頼まれ、「そんな余計な金はない」「若造のくせに生意気だ」と飛ばされた。とにかく曲がったことが嫌いで「正しい」という言葉が大好きだった。同期生が心配し3年先輩で課長の若槻に頼み、やっと本省に戻してもらった。

…… 浜口の仕事ぶりに惚れ込んだ後藤新平 ……

最初は後藤が台湾総督府民政長官の時、二度目は満鉄総裁になった後藤から満鉄理事の口が…。浜口は専売局部長で大蔵省では傍流。収入は10倍に増えるが、浜口は「専売局の事業はようやく緒についたばかり。自分が去れば、その仕事を紛糾させることになる。そんな無責任なことは出来ない」と断った。

三度目は大正元年、桂太郎内閣逋信相の後藤に望まれ次官に就任したが、桂内閣は「大正政変」で2か月足らずで崩壊、浜口も辞職した。

●浪人した浜口は、政治家を志した

▽立憲同志会(後の憲政会)に入り

高知から立候補したが まだまだ訥弁 落選した

▽実際の政治に 触れるには

議会で勉強するのが 一番いいと

党の事務員の記章をつけ 毎日 議会通い

▽暇さえあれば 地方遊説 演説に磨きをかけ

大正4年 補欠選挙に当選して 政界入り

▽民政党初代総裁(昭和2年6月)となり

昭和4年7月 59歳で首相 明治生まれ初の首相

ような境遇になろうとは…。見ていて実に堪えられん」山梨は「いや、私はちっとも遺憾とは思っていない。軍縮のような大問題は犠牲なしには決まりません。自分がその犠牲になる積もりでやったのだから、少しも惜しむべきではありません」

昭和14年から学習院長。今の天皇の教育に当たり、戦後も90歳で亡くなる直前まで海上自衛隊幹部学校で講義、講義録は大学ノート40冊にも。

— 雄幸という変わった名前は —

明治3年土佐藩山林見回りの三男として生まれた。今度こそ女と思っていたのに、また男。そこで「おさち」と女の子のように呼べる名前をつけたというが、とても女の子どころか、鬼瓦みたいな顔でガッシリした体格。

小さい時から頑張り屋で、高知中学には毎朝6時起きして往復4里の道を通い、成績は中学創立以来の秀才。三高(藩)に進んだとき浜口という素封家に望まれ養子に。21歳、学生結婚。

— 若槻の見た浜口 —

無口で軽々しく喋らないし、議論もしない。しかし、自分の意見はちゃんと立てて、ぐらぐらしらない。改善すべきものは、どしどし改善して行く。人間としての風格は重厚そのもので、事を託したら間違いのない、安心できる、実に正直な好い人だった。

後藤 新平(ごとう・しんぺい)

安政4(1857)～昭和4(1929)岩手県生まれ。内務省衛生局長、台湾総督府民政長官を経て明治39年満鉄総裁。大正1年桂内閣逋信相。寺内内閣内相・外相を歴任し東京市長。12年山本内閣内相となり、関東大震災後の帝都復興計画を立案

- 浜口の生涯には清々しい、しっかりしたシンが一本
 - ▽ 命懸けでやろうとしたのが 軍縮のほかに 金解禁「金本位制」に 復帰することだった
 - ▽ 第一次世界大戦で 日本は 大正6年9月12日 大蔵省令第28号で 金の輸出を 禁止していた
 - ▽ 大戦が終わると アメリカ(1918年)を皮切りに 各国は 金本位制に復帰 浜口内閣成立の時 金本位制でない国は 日本とスペインだけ 「通貨不安定な国」の烙印を 捺されていた
 - ▽ 「経済国難の時代」だった 昭和4年度予算も 歳入が16億円しかないのに 歳出は17億7千万円 不足は公債発行 赤字国債は58億8千万円に
 - ▽ 浜口は 国際標準に 追い付くことで 物価は下がり 輸出も回復して 日本経済は 健康体を取り戻すと 確信していた
 - ▽ 蔵相に起用したのは 井上準之助 井上は 慎重論「いま金を解禁するのは、 肺病患者にマラソンをさせるようなものだ」
 - ▽ 金解禁には 金が海外に 流出してもいいように 思い切った緊縮政策で 物価を下げるなど 環境を整えておく必要があった
 - ▽ それが出来るのは 井上しかいないと 思ったのだ

- 浜口内閣の緊縮政策は徹底していた
 - ▽ まず 田中内閣時代にできた 昭和4年度予算 実行3か月の予算を見直し 削減目標8,500万円
 - ▽ 工事中の 国会議事堂 警視庁建設も ストップ 料亭政治を廃止し 会議の食事も簡単なランチ
 - ▽ 目標を上回る 9千万円余りを減らし 5年度予算でも 1億8,700万円削減 公債発行は 明治41年以来 22年ぶりにゼロに
 - ▽ 浜口首相は ラジオで直接 国民に訴えた 井上蔵相も 6日間に 26回の講演をして回った
 - ▽ 緊縮政策には 軍縮をやる必要があったし 井上には 金本位制で 軍部にブレーキ 軍事費膨張を抑える狙いも あった

- 金解禁は、昭和5年1月11日から実施された
 - ▽ 新聞は「多年の暗雲、これで一掃」と 歓迎したし 多くの国民も 何か即効薬のような 期待感

金本位制

第1次世界大戦まで各国が採っていた金融システム。国発行の通貨の量は政府が保有する金の量によって決定され、為替取引も金で行なわれた。金保有量と通貨の発行額を連動させることで国際収支のバランスもとれると、自動調節作用が金融安定装置として信頼されていた。

大戦が始まると、各国とも先行き不安に備え金を温存しようと金本位制を停止、管理通貨制度にした。金保有量に関係なく、通貨価値の安定、完全雇用維持など経済政策上の目標に従って、通貨を管理しようというもの。

井上 準之助 (いのうえ・じゆんのすけ)

明治2(1869)～昭和7(1932)大分県生まれ。明治29年日銀に入り、横浜正金銀行頭取を経て大正8年日銀総裁。12年山本内閣蔵相。日銀総裁再任を経て昭和4年浜口内閣蔵相となり金解禁を断行。第2次若槻内閣にも留任したが、血盟団・小沼正に狙撃され死亡した

…… 官吏減俸案では躓いた ……

昭和4年10月15日、抜き打ち的に「官吏減俸案」が発表された。年俸1200円を超える者から大体1割程度、俸給に応じて累進方式を採用していたが、官吏の猛反対を招いた。

先陣を切ったのが検事、判事。東京で60人の検事が反対決議をすれば、裁判所の判事室には「取調中」の札がかけられサボ状態。法廷を開いているのは大審院の老判事だけだった。

新聞には「大佐が中佐に逆戻りする陸海軍」、「痛しかゆし大蔵省 親分を怨む声いろいろ」の記事。鉄道省では山手線ストの動きも。与党民政党からも反対が出て1週間で撤回された。

▽総選挙(2月20日)も 民政党が圧勝
一躍 100議席増やして 273議席
「金解禁時期尚早」の 政友会は174議席

●政局は安定したが、「昭和大恐慌」が迫っていた
▽きっかけは「暗黒の木曜日」

ニューヨーク株式の大暴落(昭和4年10月24日)

▽「永遠の繁栄」を謳歌し

異常なほどの株式ブームの アメリカ経済は
4年以上も 深刻な不況に 打ちのめされる

▽恐慌の波は

たちまちヨーロッパに波及 日本にも上陸

●余りにも金解禁のタイミングが悪過ぎた

大暴風に向かって、雨戸を開け放った

▽第二の失敗は 法定の円レートを
金輸出禁止前の 旧平価

100円に対して 50ドルで解禁したこと

▽石橋湛山 高橋亀吉ら

経済ジャーナリストは 新平価解禁を主張
「輸出の国際競争力をつけるためにも、
円の価値を下げて、その頃の為替相場
43ドルの実勢価格で解禁すべきだ」

……なぜ、旧平価解禁に踏み切ったのか……

新平価解禁には貨幣法の改正が必要だった。
解禁前の議会は「金解禁時期尚早」の政友会が
多数党だったから、簡単には通らない。それが
旧平価なら金輸出を禁止した大蔵省令の廃止
一本ですみ、議会審議の必要がなかった。

▽結果的には 予想以上に大量の 金流出となり
金融行き詰まり 倒産 失業者激増と
止まるところを知らない 不景気に落ち込んだ

岡本一平は、新聞にこんな漫画を載せた

病状を心配する家族に、聴診器を持った医者
の浜口が、「大丈夫、健康は回復する。ただし命
は保証できない」と言っている。

石橋 湛山(いしばし・たんざん)

明治17(1884)～昭和48(1973)東京生まれ。身延山久遠寺法主杉田湛誓の子。東洋経済新報で社説を担当し、「満蒙放棄論」など、自由主義の立場から軍国主義を鋭く批判した。戦後蔵相、通産相を歴任、昭和31年保守合同後、初の自民党総裁選で首相に就任したが、2か月で病氣辞任。34年訪中、国交回復の土台を作る

高橋 亀吉(たかはし・かめきち)

明治24(1891)～昭和52(1977)山口県生まれ。大正7年東洋経済新報に入社し編集長。15年退社、フリーの経済評論家の草分けに。昭和7年高橋経済研究所を設立し所長となり企画庁参与。戦後、拓殖大学教授。49年文化功労者

「価格恐慌」だった

あらゆる物価が、軒並み4割から5割も下がった。恐慌で海外の物価が下がっているところへ、日本の円高製品が出て行っても売れない。

真っ先に直撃されたのが、対米貿易の中心であり外貨獲得の主役だった生糸。輸出激減で昭和5年9月には、価格が前年3月に比べ52%も下落した。

需要が減れば、産業界は生産を減らすし、倒産も出た。失業者50万人。「大学は出たけれど…」が流行語になる、空前の就職難時代になった。

都会で働く労働者には農家の二、三男が多かった。東京朝日新聞は「東京から地方へ通ずる街道には、旅費もなくとぼとぼと歩いて帰郷する者がめっきり殖へ、中には妻や子供を連れて乞食の如く道筋の人家で食をもらいながら長い旅を続けるという光景が、至る所に見られた」(昭和5年9月3日)

●なぜ、政策転換に踏み切れなかったのか

▽浜口首相も 井上蔵相も

財政に 自信を持っており また 頑固過ぎた

▽金本位制は 昭和6年12月

政友会犬養内閣 高橋是清蔵相により廃止され
二度と 復活することはなかった

…… 金解禁の時、高橋是清は言っていた ……

金解禁はきっと失敗する。若槻、浜口、井上の
三君とも頭のいい秀才だが、あの人々は二に
二を足す四とのみ考えるが、世の中のことは
常に二に二を足して四とはならぬものだ。

▽世界恐慌の 大暴風に呑み込まれ

経済学の教科書通りには いかなかった

●恐慌が大きな社会不安を生み、「統帥権干犯」の聲が
重なって、騒然たる世相に

▽浜口首相狙撃も こうした背景の中で起きた

西園寺の嘆き(脚注)

海軍大将とか海軍中将とか、世間で相当の人
と思われている連中が、自分もわからないく
せに、統帥権干犯だの、ロンドン条約は国家に
不利であるというようなことをいうのは、無
知な青年を少なからず激高させる。

▽昭和5年11月14日朝 陸軍大演習(剛)出席のため
ホームに上がったところを 待ち伏せしていた

佐郷屋留雄に 至近距離から撃たれた

▽長期療養が必要になり 臨時首相代理には

男爵で 宮中席次の高い 幣原外相

▽政友会は 議会答弁の下手な幣原を

攻撃目標に 浜口内閣倒閣を目指した

●昭和6年2月3日、衆議院予算総会は大荒れとなった
「幣原失言」問題

政友会議員の「ロンドン条約で国防上不安は
ないのか」この質問に幣原は、「現にロンドン
条約はご批准になっております。ご批准にな
っていることを以て国防を危うくするもので
ないことは明らかであります」と答弁した。

中でも悲惨だった農村

昭和5年は大豊作だった。ところが、
10月に豊作予想が発表された途端、
米価は10日余りの間に石当たり27円
が15円以下に急落した。キャベツ50
個で煙草「敷島」1箱(15銭)と交換した
とか、不作続きの青森県では、娘の身
売りが2年間に4千人の記録が残って
いる。小学校では、弁当を持って来な
い欠食児童が増えた。先生が「どうし
たんだ」と聞くと健気にも「忘れまし
た」その先生も村の予算がないため
給料の未払いが続いた。

岡本 一平(おかもと・いっぺい)

明治19(1886)～昭和23(1948)函館生ま
れ。漫画家。朝日新聞を中心に漫画漫文
形式の作品を発表。歌人・小説家の岡本
かの子は妻、洋画家岡本太郎は長男

高橋 是清(たかはし・これきよ)

安政1(1854)～昭和11(1936)江戸生ま
れ。日銀副総裁の日露戦争中、戦費調達
の外債募集に成功。日銀総裁、蔵相を歴
任し、大正10年11月原首相暗殺で首相、
政友会総裁。昭和2年田中内閣蔵相とな
り金融恐慌を収拾。満州事変後犬養・斎
藤・岡田内閣蔵相。二・二六事件で暗殺

浜口の配慮がアダに

東京駅では9年前(大正10年11月4日)原敬
首相が暗殺されて以来、首相の列車
乗り降りの際には一般人をホームに
入れないようにしていた。浜口は「そ
れでは迷惑をかける」と止めさせた。

原 敬(はら・たかし)

安政3(1856)～大正10(1921)岩手県生
まれ。大正7年政友会総裁として初の政
党内閣を組織、「平民宰相」と世論の支
持を受けたが、東京駅で暗殺される

また「蒸返しの議論か」と、居眠りしている議員も多かったが、傍聴に来ていた幹事長・森恪だけは違った。さっと和服の袖を翻し「幣原ヲ、取り消せ！」と怒鳴った。配下の川島正次郎にはすぐ意味がわかった。「天皇が批准した」は、天皇に責任を負わせるもので内閣として無責任だ — 川島たちが「総辞職せよ」と叫んで委員長席に殺到、予算総会は流会となった。

▽審議は 10日間にわたって ストップ

予算が成立しなければ 内閣は倒れる

▽議場では連日 院外団を動員し 流血の乱闘劇

▽政党政治が 国民の信頼を失っていったのは

不況のどん底だというのに

党利党略 乱闘劇に うんざりしていったから

▽幣原が 発言を 全面的に取り消すことで

混乱は 一応 収束したが 森幹事長は

「混乱は浜口首相が議会に出て来ないためだ」

▽民政党の中からも 首相交代論が出てきて

幣原は そうした声を 抑えるため

貴族院本会議(2月19日)で「三月には登院できる」

▽1月下旬 退院した浜口は

3月に入って 激しい腹痛 下痢に襲われていた

▽しかし 無理を承知で「議会に出る」

医師は「とんでもない。命を保証できない」

浜口は「命に関わるなら、

約束を破ってもいいというのか。議会壇上で死ぬとしても、責任を全うしたい」

●浜口は3月10日、病体を押しして登院した

▽昭和6年度予算では

軍縮で浮いた財源を元に 1億3,400万円を減税

▽予算を成立させ 議会が終わったところで

浜口の体力は 尽きた

▽4月4日に再入院 二度目の開腹手術が必要になり

13日 辞職した 首相在任1年9か月だった

▽政友会は 次期政権を狙って 動いたが

元老西園寺は「そんなことをすれば、

暗殺を奨励することになる」と

後継首相には 民政党総裁若槻を 推挙した

川島 正次郎(かしま・しやうじろう)

明治23(1890)～昭和45(1970)千葉県生まれ。東京日日記者を経て昭和3年衆院議員(当選14回)。政界寝業師の異名。行政管理庁・自治庁長官、自民党幹事長

北田 梯子「父浜口雄幸」(昭和7年)

父は唐詩選(唐詩の歌人128人、465首の詩集)を愛吟した。そのうちに李益の「従軍北征」と云ふ七言絶句がある。父は折に触れて過去の艱苦と眼前の難関とに思ひを走らせるとき、よくこの詩を口號(くちが)むだ。

天山雪後海風寒 横笛偏吹行路難

磧裏(せきり=磧) 征人三十万

一時回首(こうべをめぐらし) 月中看

東京駅頭の遭難後、大学病院の病床にあったときも、父は好んで「従軍北征」の唐詩を吟唱するのを見た。今度は更に新たに、未だ曾て思ひも寄らなかった行路難を経験して一層感慨深きものがあったからであらう。

議場の浜口

衆議院本会議場に姿を見せると、野党政友会議員までが起立して割れんばかりの拍手で迎えた。しかし、顔面蒼白、髪も髭も真っ白で、頬はげっそりとこけて立っているのが不思議なくらい。幽霊のような姿だった。

会期末の27日まで登院は10日間。長い時は夜9時まで、7、8時間に及んだ。かすれ声の答弁に「聞こえないぞ」と野次が飛ぶと、右手を肩の高さまで挙げる独特のゼスチャーで声を励ますように答弁した。

発熱で、パンで作ったお粥もノドを通らなくなり、まさに体力でなく、気力だけの登院だった。

●陸軍では、クーデター計画が進められていた

三月事件

参謀本部ロシア班長橋本欣五郎中佐は、トルコ駐在武官時代に帝政トルコを倒して英雄となったケマル・パシャを見て、国家改造には議会を倒して軍部独裁にすることだと、昭和5年9月陸軍中堅将校を集めて「桜会」を結成、大川周明とクーデター計画を進めた。

大川が動員した右翼系労働組合員1万人で議会を包囲、議会を解散させる。市内各所に爆弾を投げて戒厳令を布き、陸相宇垣一成の「挙国一致内閣」を作る。小磯国昭軍務局長から相談を受けた永田鉄山軍事課長は、「非合法な方法で政権を握ろうなどは、以ての外です。たとえ一時成功しても、すぐ壊れます。陸軍が壊れます」 反対したが、渋々プラン作りを受け、クーデター決行日は3月20日とされた。

ところが、議会在「幣原失言」でもめたことから事情が変わってきた。民政党内にも「宇垣担ぎ出し」の動きがあり、クーデターをやらなくても政権は手に入る。この宇垣の期待は、浜口氣力の登院で吹き飛んだ。こんな時に議会に乱入すれば、全国民の恨みを買ひ、宇垣の政治生命、社会的立場もなくなってしまう。小磯を呼び「こんな馬鹿げた計画を採用できるか。直ちに計画を放棄するよう、大川に伝えろ」

三月事件は、知る人ぞ知るで、闇から闇に。

●浜口は昭和6年8月26日に亡くなった。61歳

▽井上蔵相は 人前もはばかりず 号泣した

▽その井上も 7年2月9日「一人一殺」を掲げる

井上日召の「血盟団」により 射殺される

▽政友会の犬養毅首相も 五・一五事件で暗殺され

政党内閣制は 実質的に 幕を閉じる

▽浜口内閣ほど 政党政治 議会政治の立場を

貫こうとした内閣は なかった

▽それだけに 経済政策の失敗から

社会不安を生み ファシズムを台頭させ

軍国主義化への道を開いたのは 残念だった

橋本 欣五郎 (はしもと・きんごろう)

明治23(1890)～昭和32(1957) 岡山県生まれ。陸軍大佐。昭和5年満蒙問題解決、国家改造を目指す「桜会」を結成。6年の三月事件、十月事件首謀者。17年衆院議員。A級戦犯で終身禁固刑。30年仮出所

ケマル・パシャ (Kemal Pasha)

1881～1938 トルコ共和国初代大統領。帝政トルコを倒して近代化を進め、「アタチュルク」(父なる人)の称号を受ける

大川 周明 (おおかわ・しゅうめい)

明治19(1886)～昭和32(1957) 山形県生まれ。国家主義者。五・一五事件で禁固5年。A級戦犯指定も精神障害で不起訴

宇垣 一成 (うがき・かずしげ)

明治1(1868)～昭和31(1956) 岡山県生まれ。陸軍大将。5代の内閣で陸相。宇垣軍縮を実施。朝鮮総督を経て昭和12年1月組閣の大命を受けたが陸軍の反対で断念。13年近衛内閣外相。28年参院議員

小磯 国昭 (こいそ・くにあき)

明治12(1880)～昭和25(1950) 栃木県生まれ。陸軍大将。昭和5年陸軍軍務局長。次官、朝鮮総督、拓務相を歴任し19年首相。A級戦犯で終身禁固刑、拘置中病死

永田 鉄山 (ながた・てつざん)

明治17(1884)～昭和10(1935) 長野県生まれ。陸軍少将。動員、軍事課長を歴任、昭和9年軍務局長。在任中に皇道派将校に殺害され、二・二六事件の引き金に

井上 日召 (いのうえ・にっしょう)

明治19(1886)～昭和42(1967) 群馬県生まれ。国家主義者。昭和7年血盟団を組織、井上準之助、団琢磨暗殺事件を起こす。無期懲役を受け15年大赦で出獄